

■研究ノート

岩手を代表する民家、南部曲り屋

瀬川 修 (学芸調査員)

日本にはたくさんの種類の民家があります。民家の多種多様性では世界一ともいわれるほどです。現在の住宅と違って、伝統的な民家は自然の制約を強く受けますので、それだけ日本の風土は変化に富んでいるといえるでしょう。

1 岩手を代表する南部曲り屋

岩手の民家は、大きく分けると、直屋と曲り屋の二つに分けられます。直屋は「すごや」と読み、文字通りまっすぐな家です。これは曲り屋と対比して使われます。曲り屋とはL字形に曲った家のことで、「南部曲り屋」(曲り屋)が有名です。

南部曲り屋は主屋に馬屋がL字形に繋がれたものです。したがって、馬屋は家の中に置かれることになります。主屋の中に馬屋を置いた民家を「内馬屋」といい、人馬一体になって暮らしていました。

このように、民家は馬屋を外に取るか、内にとるかという分け方で見ることがもできます。その場合は曲り屋はまちがもなく内馬屋で、直屋は地域によって分かります。概して、県南地方はほとんど外馬屋です。内馬屋は寒さに適応した造りで、岩手だけでなく、奈良のような近畿地方でも見られます。

南部曲り屋はかつては旧盛岡(南部)領にふつうに見られる風景でした。今ではほとんど見ることはできません。現在、南部曲り屋を見ようと思ったら、博物館のような施設に行かなければなりません。そのような施設は表のように全部で18施設26棟あります。これらは一部を除き、市町村などによって管理されています。

二種類の南部曲り屋

南部曲り屋は大きく分けて、二種類あります。曲り部である馬屋を主屋の右にとるか、左にとるかの違いです。これはダイド

コロのある土間の位置の違いによって決まります。大きく見て、盛岡付近は馬屋を右に取り、遠野付近は左にとることが多いようです。この違いによって受ける印象がずいぶん違います。

この二つの曲り屋は、間取りでも違いを見せています。生活の中心となる囲炉裏のある部屋を「ジョウイ(常居)」と

いいます。その「ジョウイ」を前に取るか、奥にとるかという違いです。前とは家を棟で前後に分けて、その前庭に近い方です。奥ジョウイの場合は、前面に「チャノマ」が付き、納戸(寝部屋)は座敷側に縦長に取られることが多いようです。座敷はどちらも前後に二室で、まれに三室が見られます。他には外観で棟押さえの形式に違いが見られます。岩手では、旧盛岡領でも旧仙台領でも置干木を使うことはなく、芝棟(クレグシ)が箱棟です。盛岡付近に箱棟が見られますが、全体としては芝棟が多いようです。

佐々木家のくらし

当館に展示されている曲り屋は、佐々木家住宅(重要文化財)です。佐々木家住宅は北上山地の北部、現在の岩泉町にありました。北上山地は畑作地帯であったので、佐々木家の馬は、盛岡のような内陸部とは



佐々木家住宅(岩泉町)
重要文化財。移築復原前(昭和40年代)。

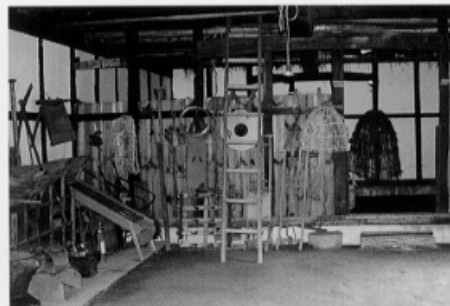
違った使い方をされたことでしょうか。馬などの家畜は農耕の他に肥料がとれる利点がありました。しかし同時に、飼料を確保しなければならないという別の大変さがありました。

馬屋は盛岡地方と同じ右手にあります。外から馬屋へは前庭に面した戸口から入ります。また、家の内部からは土間を歩いて馬屋へ入ります。ここには敷居があって、馬屋と主屋の境界が板壁で仕切られているのは、寒さに対応した造りと思われます。これは他の曲り屋とも違うところです。佐々木家の馬は馬屋の規模からいって一頭か二頭であったと思われます。

土間には、ヤダ釜とよばれるカマドがあります。饅頭型に土で固められたカマドに鉄製の大きな釜をのせているものです。この釜をヤダ釜とか、雑水釜ぞうみずと呼びます。このカマドでまぐさを柔らかくしたり、豆を煮たりしました。馬屋には味噌コガ(桶)があ



南部曲り屋
昭和16年。最も新しい曲り屋。御所湖広域公園内。



馬屋内部
広い土間は農具置き場と作業場です。

りました。味噌蔵も兼ねていたのです。土間にあるカマドはこのようにご飯を炊いたりするたるのものではなく、おもに馬のためのものです。全国的に見られる、クドとよばれる三連から五連のカマドとは違うものです。

2 南部曲り屋と中門造り

曲り屋には二種類あります。ひとつは南部曲り屋。もうひとつは中門造りと呼ばれるものです。中門造りは曲り部を中門と呼び、「馬屋中門」ともいわれました。また座敷側を中門とすることもあり、全体としてコの字型を取ることもあります。

南部曲り屋と中門造りとは、曲り部分の使用法が異なります。南部曲り屋は主屋に馬屋をつないだもので、曲り部分は主として馬屋としての機能のみです。それに対して中門造りの曲り屋は、馬屋の他、通り土間が付き、便所・物置等も備わります。このような機能は、どちらかというとき長屋門に近いようです。また、通り土間の先には中門口があって、出入りができます。南部曲り屋の出入り口がホラマエ（取り合い部分）と呼ばれるところの大戸口であることと大きく異なります。中門造りは雪に対応した造りなのです。

この二つの曲り屋は別々に発展したものと考えられますが、まったく関わりがない



及川家住宅（北上市）
幕末。外観は南部曲り屋。妻入り。

かという、そうではないようです。秋田と岩手の街道筋にそれぞれ影響を受けたと思われる民家があります。

中門風の及川家住宅

北上市・及川家住宅は、現在は江釣子史跡センターに移築されていますが、もとは旧江釣子村にありました。外観は曲り屋ですが、よく見ると曲り部の妻側（写真の正面）に入口があります。この曲り部は馬屋と同時に通り土間にもなっています。つまり、中門風といえます。一方、棟高は曲り部である方が高く、座敷部分は低くなっています。南部曲り屋とは逆です。南部曲り屋は、馬屋と主屋が同じかほんのわずか馬屋が低いのが普通です。このことから、この曲り部は本来直屋であり、中門ではないと考えられます。妻側の入口は中門口ではなく、雪に対応した妻入りと考えられます。この及川家住宅は、中門造りの中で「座敷



伊藤家住宅（秋田県大曲市）
明治33年。もと、田沢湖町。登録文化財。

中門」というものが見られますが、その影響を受けたものといえます。ただし、座敷側には玄関（式台）はつかず、二方に縁を回しています。

この他にも、現存しませんが、雫石町に両中門に近い民家があったことが知られています。雫石町は南部曲り屋の卓越して見られるところでもあり、秋田との交流が想像できます。

秋田の曲り屋

田沢湖町にあった伊藤家住宅は外観上は曲り屋で、曲り部には中門口が見えるので、中門造りにみえます。しかし、曲り部はほぼ馬屋としての機能のみで、通り土間はありませぬ。中門口に見えるものは、馬の出入口です。したがって、伊藤家住宅は中門造りではなく、南部曲り屋風といえます。伊藤家住宅は秋田側にあつて、南部曲り屋の影響を受けた民家です。現在は大曲市の秋田県立農業科学館内に移築復原され、国の登録文化財となりました。

このようなことから、南部曲り屋と中門造りは接点があり、それぞれ影響を及ぼしたと考えられます。

なお、曲り屋は仙台市付近と北関東にも分布しますが、疑似曲り屋というもので、分棟型の変形と考えられています。

*この文章は「北の馬文化」展図録の一部を加筆修正したものです。

南部曲り屋の展示施設

	展示施設	市町村	棟	備考
1	岩手県立博物館	盛岡市	1	重要文化財
2	盛岡手づくり村	盛岡市	1	平成12年焼失
3	御所湖広域公園	盛岡市	1	
4	橋本美術館	盛岡市	1	
5	盛岡市中央公民館太田分館	盛岡市	1	=太田民俗資料館
6	雫石町立歴史民俗資料館	雫石町	1	
7	矢巾町立歴史民俗資料館	矢巾町	1	
8	みちのく民俗村	北上市	2	
9	伝承園	遠野市	1	重要文化財
10	遠野ふるさと村	遠野市	6	
11	千葉家	遠野市	1	個人所有。現住。
12	小原家	東和町	1	重要文化財
13	伊藤家	東和町	1	重要文化財。個人所有。
14	アジア民族造形館	野田村	3	
15	苔屋（とまや）	野田村	1	宿泊施設
16	川崎市立日本民家園	川崎市	1	重要文化財
17	日本民家集落博物館	豊中市	1	大阪府指定
18	国営みちのく杜の湖畔公園	宮城県川崎町	1	